【講演概要原稿の書き方】

電子媒体による講演概要原稿は、下記共通の「講演概要原稿の書き方」要領にしたがって執筆し、仕上がりが同じ体裁になるようにしてください。

1 原稿

- (1) 原稿は、PDF ファイル形式の電子投稿を原則とし、9 ポイント以上 10.5 ポイント以下の活字を用いて、必ず余白を上下左右 25mm とって作成してください。原則として文字は明朝体またはゴシック体をお使いください。また、本文の構成は原則として二段組みとし、段と段の間隔は3文字程度取るようにしてください。
- (2) 原稿のページ数は、1 題目につき原則として 2 枚～4 枚です。

2 和文題目・所属及び発表者氏名の記載方法

- (1) 原稿 1 枚目の上辺に余白 (25mm) をとったうえ、最上段から題目、所属並びに発表者氏名を記入してください。原則として題目 (表題及び副題) は 11 ポイント程度の本文の活字より大きな活字を用いて中央揃えに 1 行目を表題とし、副題がある場合には改行してください。さらに次の行から題目の活字よりポイントを落として所属と発表者氏名を余白 (25mm) を右辺にとったうえ右揃えで作成してください。本文は発表者名記載の次の行からはじめてください。なお、発表者が数名の場合には右揃えの上、できるだけ 1～2 行で収まるように作成してください。
- (2) 口頭講演発表者氏名の頭には○印をつけてください。(単名の場合においても口頭講演発表者氏名の頭には○印をつけてください。) 所属は、大学・学部名、研究所名、会社名等を下記の例のように略記して記載してください。

☆所属の記載例

区分	所属例	記載例
本学専任教員	日本大学生産工学部	日大生産工
	日本大学理工学部	日大・理工
非常勤講師	生産工学部非常勤講師で他に主たる勤務先がある場合	主たる勤務先
	生産工学部非常勤講師で以前本学部の専任教員だった場合	元日大生産工
	上記以外の場合	日大生産工 (非常勤)
他大学, 研究機関, 民間企業	〇〇〇大学理工学部	〇〇〇大・理工
	独立行政法人産業技術総合研究所	産総研
	東京電力株式会社	東電 (株)

区分	所属例	記載例
大学院学生	日本大学大学院生産工学研究科	日大生産工（院）
	日本大学大学院理工学研究科	日大・理工（院）
	〇〇大学大学院情報システム研究科	〇〇大・情報システム（院）
学部学生	日本大学生産工学部	日大生産工（学部）
研究生, ポスト・ドクター研究員, 生産工学部研究員	日本大学生産工学部研究生	日大生産工（研）
	日本大学生産工学部 ポスト・ドクター研究員	日大生産工（PD）
	日本大学生産工学部研究員 （有給）（無給）	日大生産工（研究員）

※注 意

「題目」と「発表者氏名」が講演申込時の記述と一致しているかを必ず確認してください。

3 英文題目及び発表者氏名の記載方法

- （1） 英文題目と発表者氏名は本文との間に下線を引き、原稿1枚目の下段（最大3～4行）に、題目と同じ活字を用いて中央揃えで印字してください（所属は記入しません）。その際に、原稿下辺に余白（25mm）があることを必ず確認してください。
- （2） 講演題目の冠詞・接続詞及び前置詞以外の単語の頭文字は、大文字にします。ハイフン（－）でつながれている場合も同様とします。副題は、ハイフンの間（－ －）に印字してください。
- （3） 発表者氏名は、First name（名）、Family name（姓）の順で表します。First name（名）は、頭文字を大文字、第2字目以降は小文字で full spelling とし、Family name（姓）は、すべて大文字としてください。
発表者が複数の場合は、それぞれの発表者の後にコンマをつけ、最後の氏名は and でつなぎます。

☆英文題目・氏名の記載例

Place and opportunity for Life-Long Education
 — A Comparative Analysis of cities on Sobu Line —
 Takeshi NAGATSUKA, Shigeru WAKAKI and Heihachi ASANO

4 用字の記載

- （1） 漢字は常用漢字、かなは新かなづかいによる。慣用の外国語の単語は原則としてカタカナを使用し、周知でない単語や、やむを得ない場合に限り原語を使用する。日本語で明瞭に意味の通じる用語には、外国語を使用しない。ただし、外国の地名、人名、外国書籍名などは原則として原書通りのつづりとする。なお、企業名・商品名は原則として使用しない。

- (2) 数字は、数量を表わすときはアラビア数字を使用する。しかし、漢字と結合して用語として使用する場合は、「三角形」、「六角ボルト」などのようにし、「ひとつ」、「ふたつ」などと読む場合には、「一つ」、「二つ」というように漢字を使用する。
- (3) 文章と同一の行の中にある分数、数式は、 $1/2$, x/y , $(a+b)/(c+d)$ のように書く。ただし、文章中にないものは、 $\frac{1}{2}$, $\frac{x}{y}$, $\frac{a+b}{c+d}$ と書き、原稿の2行分とする。
- (4) 数式の番号は通し番号とし、() で囲んで必ずページ（各段組み）の右側に置く。
- (5) 用語・単位記号などは、原則として、文部科学省編「学術用語集」、日本規格協会編「JIS 用語集」などの標準用語を使用する。また、使用する単位系は、SI 基本単位とする。

5 参考文献の記載方法

- (1) 参考文献は通し番号をつけ、本文末尾に「参考文献」としてまとめて記す。本文中の引用箇所では、引用番号は当該文章の右肩に半括弧でつける。
- (2) 参考文献以外の備考、付記などは、本文の該当箇所に星印（*1, *2…）をつけ、脚注を付記する場合は、ページ下方に書き、横線を引いて区別する。
- (3) 参考文献表記の順序は、以下を原則とする。
 - ・雑誌の場合・・・著者名、表題、雑誌名、巻,号、発行年、ページ
 - ・講演会等の予稿集の場合・・・著者名、表題、大会名、発表年、予稿集のページまたは講演番号
 - ・単行本の場合は・・・著者名、書名、発行所、発行年、ページ※ ただし、編者がある場合は、著者名、表題、編者名、書名、発行所、発行年、ページ
- ・Web ページの場合・・・著者名（サイト運営者）、記事名、更新年、URL、最終アクセス日

☆参考文献の表記例

- 1) G. Moan, C.M. Sargent and J.D. Embhury, “Acoustic Emission in Burt Test of Rocket Motorcase” ,Proc, 3rd Int. Conf. Strength of Metals and Alloys, (1973) p.52.
- 2) 斉藤喜八, 高垣玄吉郎 編「抑制性アミノ酸」講談社サイエンティフィック, (1981) pp.73-101.
- 3) R. D.Blevins, Flow-Induced Vibration, 2nd ed., Van Nostrand Reinhold, New York, (1990) pp.22-24.
- 4) 志水英樹, 鈴木信弘, 山口 満, 駅舎および周辺町並の知覚構造に関する研究, 日本建築学科計画系論文集, No. 433, (1992) pp.45-51.
- 5) 木下栄蔵, AHP の理論と実際, 日科技連, (2000) p.218.
- 6) 科学技術振興機構, 参考文献の役割と書き方, (2011) https://jipsti.jst.go.jp/sist/pdf/SIST_booklet2011.pdf, (参照 2019-06-24)

6 PDFファイル形式およびPCのOS等の制限

(1) 講演概要原稿のファイル形式

電子原稿は、最新の Adobe Acrobat Reader で表示または印刷可能なPDF (Portable Document Format) ファイルで提出してください。

(2) 講演概要原稿のファイルサイズ (容量) の制限

ファイルサイズは、5MB 以内としてください。5MB を超えると送信できません。またファイルは一つとし、圧縮ツールによる圧縮やセキュリティ設定はしないでください。

(3) 講演概要原稿のファイル名について

必ず拡張子 (.pdf) が付いているファイルをお送りください。

(4) 作成するアプリケーションと OS

原稿を作成するアプリケーションの制限はありません。OS は最新の Windows, または Mac OS を推奨します。

(5) 講演概要原稿の PDF ファイルのバージョン等

PDF ファイルは、原則として最新の Adobe Acrobat を用いて作成します。Adobe Acrobat の詳細については、以下をご覧ください。

<https://www.adobe.com/jp/>

(6) 使用できるフォントの制限

講演概要原稿内で使用するフォントは以下に限定してください。その他の書体を使用されると、実際に利用する環境によっては文字が表示されない場合がありますので十分注意してください。

表1 使用可能な書体

	Windows	Macintosh
日本語フォント	MS 明朝, MS ゴシック, 角ゴシック	細明朝, 中ゴシック
英字フォント	Century, Times, Times New Roman, Helvetica, Symbol	

(7) 使用できる文字

コンピュータの機種により文字化けが発生する可能性がありますので、漢字コードは第二水準以内の文字を使用してください。特に Windows をお使いの場合で、人名辞書にある「崎」や「高」など第二水準にはない文字がありますので、注意してください。また、第二水準内の文字で Shift-JIS コード 8740~8790F の文字は機種によっては文字化けが発生しますので、別の文字に置き換えてください。

表2 Shift-JIS8740-8790F

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
8740	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
8750	⑰	⑱	⑲	⑳	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	・	ミリ
8760	キロ	センチ	メートル	グラム	トン	アール	ヘクタール	リットル	ワット	カロリ	ドル	セント	パーセント	ミリメートル	ページ	mm
8770	cm	km	mg	kg	cc	m ²	・	・	・	・	・	・	・	・	平成	
8780	〃	㍷	No.	KK	TEL	Ⓐ	Ⓑ	Ⓒ	Ⓓ	Ⓔ	(株)	(有)	(代)	明治	大正	昭和
8790	≡	≡	∫	ℳ	Σ	√	⊥	∠	└	∟	∴	∩	∪	・	・	・

(8) 色使い

文字も含め、色使いの制限は特にありません。ただしモノクロプリンタで出力したものを印刷原稿として利用しますので、色によっては明確に出ない場合がありますので十分注意してください。

(9) 写真や画像などの解像度

写真や画像を含む場合、この講演概要原稿をPDF化することにより、出力品質が劣化することがあります。ファイルサイズ制限内で、PDF化する際のジョブオプションの値を高くして作成してください。

(10) イラストや画像、数式、グラフ等を含むPDFファイルの作成はPDF Writerを使用しないでください。